

# 安全・安心なパーソナルデータ利活用をめざす日立

ビッグデータやIoT、人工知能などに関する技術やサービスが進展するなか、生活者のパーソナルデータ\*1が各方面で利活用されるシーンが増えています。そこで日立は、データ利活用におけるプライバシー保護に積極的に取り組むなかで、継続的に生活者の意識調査を実施しています。

\*1 本調査では、個人情報(個人情報保護法に規定する、特定の個人を識別できる情報)に限らず、商品の購入履歴やGPSによる位置情報など広く特定の個人を識別しない情報を合わせて「パーソナルデータ」と定義

## 四回目となるプライバシーに関する生活者意識調査

パーソナルデータを新たな価値創造に生かすには、その利活用に対する個人のプライバシーに関する懸念の払拭とリスクの最小化をめざす取り組みが不可欠です。

そこで日立と株式会社 博報堂は、生活者の意識の実態を把握するため、「第四回 ビッグデータで取り扱う生活者情報に関する意識調査」\*2を2019年に実施しました。

その結果、パーソナルデータの利活用について「不安が期待より大きい」という回答が前回調査から微増し、引き

続き過半数を占めました。男性と女性の意識差がより明確になり、年代が高いほど不安を感じる傾向にあることが今回初めて明確に表れました(図1、2)。また、生活者の中にもプライバシー保護に関し「企業等による対策を期待する層」と「自衛傾向が強い層」という異なる意識を持つ2つのグループが存在することが明らかになりました(図3)。人々の意識が多様化しており、きめ細やかなプライバシー対策の必要性が浮き彫りになりました。

\*2 調査日:2019年3月1日~3月3日、調査手法:インターネット調査、対象者:全国20~60代 男女計1,030名

Q 企業や公的機関などによるパーソナルデータの活用に関して、どのように感じますか。「活用への期待」と「リスクに対する不安」のどちらが大きいをお答えください。

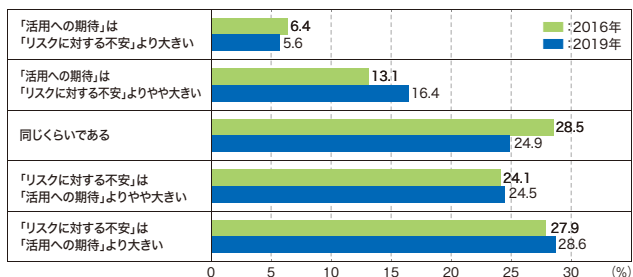


図1 パーソナルデータ活用の「期待と不安」

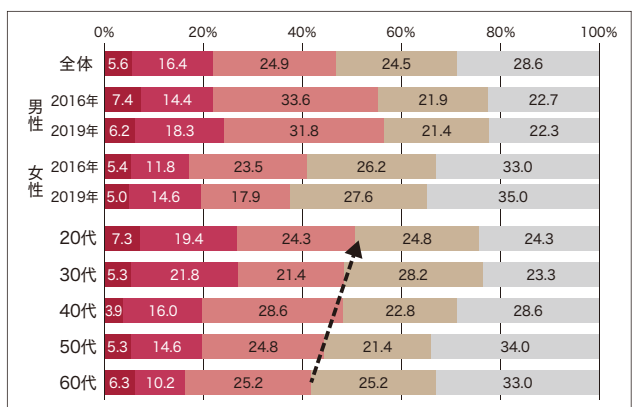


図2 前回調査との比較/性別、年代別の比較

## プライバシー保護に向けた日立の取り組み

日立は、情報・通信システム事業関連部門に「パーソナルデータ責任者」と「プライバシー保護諮問委員会」を設置。独自のチェックリストに基づくプライバシー影響評価を実施し、適切なパーソナルデータの取り扱いに努めています。日立は今後も、今回調査の知見も活用しながら、安全・安心なパーソナルデータ利活用による社会イノベーション創出に取り組んでいきます。

Q 企業や公的機関などによるパーソナルデータの活用に関して、どのように感じますか。「活用への期待」と「リスクに対する不安」のどちらが大きいをお答えください。

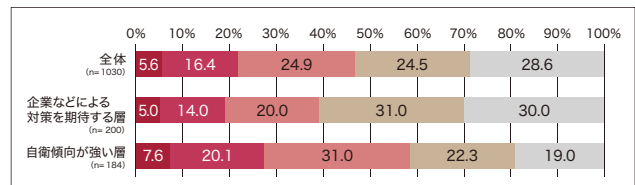


図3 企業などによる対策を期待する層と自衛傾向が強い層の比較

■ 「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい  
 ■ 「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい  
 ■ 同じくらいである  
 ■ 「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい  
 ■ 「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 事業本部 セキュリティ事業統括本部

<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2019/06/0606.html>

